

地域の活力 阿波の女性たち



次代につなげたいと

女人禁制を乗り越え地域文化を継承

「坂本おんな神楽」勝浦郡勝浦町坂本

どうやら雨も止みそうなので、七社七鳥居参りの日、太鼓の演奏は神社の境内で奉納することになった。決まるやいなや、「坂本おんな神楽」のリーダー・新居真佐子さんとそのメンバーや七福会の皆さんが手際よく演奏の準備にとりかかり始めた。

徳島市から車で約1時間。勝浦郡勝浦町にある坂本八幡神社は七社七鳥居参りができる全国的にも珍しい神社で、春と秋の社日に川を渡らず7つの石鳥居をくぐり、7つの社を参拝すると中風にならない、という古くからの言い伝えの条件を満たしているとか。今日はその境内に大小の太鼓と鉦の音が刻む迫力の早打ちが響き渡る日だ。

夏祭りとお祭り奉納しているこの神楽、



新居真佐子さん

かつては女人禁制で、代々地区の男性が担ってきた雄壮なお囃子だった。が、過疎の波に洗われ奏者不足に。伝統の祭り太鼓の担い手として坂本小学校の子どもたちに未来を託したが、1999年に小学校が廃校になり、いよいよ奏者の確保が難しくなったという。

長年太鼓奏者の指導を続け、神楽の伝統を守る活動をしてきた坂本神楽保存会代表の山田善章さんは思案の末、新聞に折り込みチラシを出した。「秋祭り太鼓奏者募集!」。2008年のことだった。

このチラシを見て応募したのが生まれも育ちも坂本という土地っ子の新居さん。伝統が途絶えるくらいなら、女人禁制の枠を乗り越えても守りたいという新居さんの強い思いを知り、山田さんも決意した。新居さん以外にも数名の女性に参加し、山田さんの指導のもと練習を重ね、その年の秋祭りでデビューを



山田善章さん